かけはし

会報 79 号 発行:特定非営利活動法人全国LD親の会 発行人:東條 裕志

事務局:〒 151-0053 東京都渋谷区代々木 2-26-5 バロール代々木 415
TEL/FAX:03-6276-8985 E-MAIL:jimukyoku@jpald.net URL:http://www.jpald.net/

特定非営利活動法人 JPALD 全国LD親の会

障害者権利条約の追い風

NPO法人全国LD親の会
理事長 東條裕志

2014 年 1 月 20 日に日本は世界で 140 番目の障害者権利条約批准国となりました。

この障害者権利条約の中で、①障害とは、単に「機能障害」によるものではなく「環境による障壁」に左右されるものであること。 ②いかなる者に対する障害に基づく差別も許されないこと。 ③障害者は一様ではなく多様性を持っていること。 ④障害者にとって個人の自律や自立が重要であること。 を明確にしています。

また、「合理的配慮」がなされていないときは差別とするとも書いてあります。合理的配慮とは、「障害者一人一人の必要を考えてその状況に応じた変更や調整をお金や労力などの負担がかかりすぎない範囲で行うこと」です。

このようなことが書かれている障害者権利条約が批准されたことは、障害がある人全体の今後の支援に追い風になるでしょう。特に、合理的配慮に関しては「一人だけにそんなことはできない」と言われることが多かったLD等発達障害がある人にとっては「我が意を得たり」の感があると思います。

ただし、合理的配慮は「状況に応じた変更や調整」なので、黙っていれば与えられるものではなく、こちらから要望していく必要が有ります。要望するサービスの内容は「本人に合ったもの」でなければなりませんし、また、「負担がかかりすぎない」方法も配慮する側と一緒に考える必要が有ります。具体的には、

1)当事者の意見を尊重しながら、将来を考慮した上で、当事者にとって本当に必要なものは何かを考える。
2)その上で、どのような支援が合理的なのかということもサービスを提供する側と相談しながら支援を求める。

ということになると思います。

少し面倒そうですが、手間を惜しんでいればお仕着せのサービスしか受けられません。サービスする側とのコミュニケーションを図っていけば、本人に合ったサービス(支援)を継続的に得やすくなるはずです。

障害者権利条約が本当の追い風になるようにみんなで活動していきましょう。

【入退会】 総会後に行われた評議員会と理事会で、高知LD親の会 sky の正会員団体としての入会が承認されました。今年の 4 月 13 日に設立したばかりの新しい会です。一方で山形県のピーターパンと岩手県のなずなの会の 2 団体が残念ながら退会となり、正会員団体は 39 都道府県で 46 団体となりました。

特定非営利活動法人全国LD親の会役員

理事長 :東條裕志
副理事長 :井上育世、多久島睦美
理事 :梅野真澄
評議員 :入船裕治、奥野由美、児島恵、斗内沢邦男、内藤聖子、三輪覚子、吉田京子
監事 :丹藤登紀子、吉田礼子

特定非営利活動法人全国LD親の会 第 7 回 総会報告

日時:平成 26 年 6 月 14 日(土) 13:00 -14:20
場所:国立オリンピック記念青少年総合センター、センター棟 研修室 402 号
総会員数47団体中、代表者出席23団体、委任状出席22団体の計45団体の参加の中、第1号議案～第3号議案のすべての議案が満場一致をもって異議なく承認されました。

【審議事項】 第1号議案 平成25年度事業報告
第2号議案 平成25年度決算報告および監査報告
第3号議案 平成26年度役員選任(案)

研修会報告

日　時:2014 年 6 月 14 日（土）　14:30～16:40
会　場:国立オリンピック記念青少年総合センター
　　センター棟　研修室402
テーマ:　高校生アンケート結果から見えてくるニーズと
　　親の会の取り組み
報告:東條裕志
発表:新潟いなほの会　-発達障害児者親の会-
　　沼田夏子
グループ討議:参加者全員

総会後の研修会「高校生アンケート結果から見えてくるニーズと親の会の取り組み」には、60 名ほどの参加がありました。東條理事長より「LD等発達障害のある高校生の実態調査報告書Ⅱ」について解説があり、その後、新潟いなほの会　沼田さんより「新潟県の高校の現状と課題」とのテーマでご講演いただきました。「一般の高校では、授業の工夫やメンタルケアはされているが、キャリア教育はされていない。自己理解・職業観・勤労観を育むキャリア教育が必要。」「高校を中退しても、高校から情報が出ないため、市町村が把握できず支援がなされず、ひきこもりにつながる。」「保護者自ら動かねば、支援は受けられない。子どもの特性を理解して、何を理解してほしいのか、具体性が必要。」等、お話しいただきました。

研修会の後半は、グループに分かれて、実態調査報告書を読み解きながら、『高校での取り組みを進めていくために、どうニーズを整理し、具体的な環境整備や合理的配慮へ結びつけていくか』について話し合いました。「自己理解」「本人の困り感をどう引き出すか？」「親の役割、本人の課題」「手帳の取得」「中高の連携」「地域格差」等について、参加者のリアルな体験談も交え、議論を深め、課題を整理することができました。グループワークでの参加型の研修会という初めての試みでしたが、様々な地域・年代の方と生きた情報交換ができ、時間があっという間に過ぎるほど充実した研修会となりました。

各県でも、高等学校における支援を求めるエビデンス(科学的根拠)として、「LD等発達障害のある高校生の実態調査報告書Ⅱ」を有効活用していただきたいと願っています。　　（多久島）

青年の交流会報告

日　時 : 2014 年 6 月 14 日(土)　12:45 集合
テーマ:東京スカイツリーにのぼろう
プログラム:13:00～17:30　　スカイツリー
　　18:30～20:30　　懇親会

東京・大阪で交互に開催されている全国 LD 親の会総会に併せて、青年の交流会を実施しています。東京開催の青年の交流会は、横浜港みなとみらい 21 巡りに始まり、原宿散策、下町巡り、スカイツリーを見ようと続き、今回のテーマは「スカイツリーにのぼろう」でした。

当日は全国から青年 30 名がオリンピック記念青少年総合センターに集合し、社会人ボランティア 2 名と担当者とともに完成後 2 年と 1 カ月のスカイツリーへ。スカイツリーは団体予約で入りましたので、待たないでスイスイとのぼることができました。スカイツリー展望デッキから、さらに地上 450mの展望回廊へ(こちらも 10 分ほどの待ち時間で済みました)。当日は、梅雨どきとは思えないほどの青空が広がっており、富士山は見えませんでしたが、東京都内を一望することができ、景色を満喫しました。

その後、東京駅に移動しスカイツリーだけの参加者とは別れ、八重洲地下街で第 2 部の懇親会に突入しました。懇親会は集まった秋田から長崎までの青年たちの普段の様子や今日のスカイツリーのことなど、話題が尽きず楽しい時間となりました。　　（粟野）

懇親会報告

日　時:2014 年 6 月 14 日（土）17:30～19:30
会　場:国立オリンピック記念青少年総合センター内
　　「レストラン　さくら」

総会、研修会終了後、多久島副理事長の司会で、全国 20 会 42 名の参加で懇親会が開催されました。東條理事長の挨拶のあと乾杯、しばし歓談のあと、各会の紹介を簡単に行いました。2 年ぶりの東京での懇親会は東京タワーとスカイツリーが同時に見える眺望でした。ワークショップで使用した模造紙を周りに掲示して、参加者に見て頂きました。それを見てここでも討議が復活していました。

それから、永年にわたり役員として全国 LD 親の会にご尽力頂き今年度退任された内藤孝子さんと、事務局の岩田さんにご挨拶いただき、感謝の印として東條理事長より、記念品が贈られました。また、今年度退任された評議員の松井さん、木村さん、小林さんにも一言ずつ、挨拶をして頂きました。皆様、お疲れ様でした。

あちこちで歓談の輪ができましたが、あっという間に閉会の時間になり、名残惜しい懇親会でした。

（内藤聖）

第 13 回　全国 LD 親の会公開フォーラム
これからの発達障害支援と合理的配慮
～個々のニーズを具体的支援へと結びつけるために～
（理学療法士協会助成金事業）

日　時：2014 年 6 月 15 日（日）
10:00　～16:40　（　開場　9:30　）
会　場：国立オリンピック記念青少年総合センター
国際交流棟　レセプションホール
参加人数　：　164 名(保護者・教育関係者・支援関係者)

今年、日本は「障害者の権利に関する条約（障害者権利条約）」に批准しました。「合理的配慮」は、障害者の権利に関する条約において提唱された新たな概念です。2012 年 7 月にとりまとめられた「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」では、「合理的配慮」は、一人一人の障害の状態や教育的ニーズ等に応じて決定されるとあります。今後、当事者一人一人のニーズを的確にとらえ、それに応じた合理的配慮を支援体制の中にどう構築していくかが課題となってきます。

発達障害のある子どもへの支援の充実にむけての課題とその解決への方策について、参加者一人一人が合理的配慮について具体的に理解を深めていく場となるよう、今回の公開フォーラムでは、講演、行政解説に加えて、体験参加型ワークショップを企画しました。

【講演】「発達障害のある子どもの教育と合理的配慮」
～豊かな学びと生活を確かに保障していくために～
柘植　雅義　氏（筑波大学　人間系　障害科学域
知的・発達・行動障害学教授）

柘植先生からは、今後、「合理的配慮」が学校・行政の役割を、そして本人・保護者の役割をどのように変えていくのかについて、ご講演いただきました。「本人・保護者が思いや要望を明確に伝えていくことがますます重要になっていく」「待っていても、必要なものは何も来ない」というお話に改めて親の会の役割と今後の方向性を確認しました。そして、「地域差を解消するために、どの都道府県にも親の会が設立されている」という基礎的環境整備についても、全国 LD 親の会の重要課題として進めていきたいと思います。

【報告】「発達障害のある高校生の実態調査報告」
～NPO法人全国LD親の会・会員調査より～
東條　裕志　氏　（NPO法人全国LD親の会）

NPO 法人全国 LD 親の会では、公開フォーラム前日に、「LD 等の発達障害のある高校生の実態調査報告書Ⅱ（全国 LD 親の会・会員調査）」を発行しました。有効回答を集計し、「男女」「手帳所持の有無」「中学校の学級籍」「高校の種別」などで比率に明確な差(有意差)があるか統計的手法を用いた検定を行っています。一部データについては 2005 年に実施した「LD 等の発達障害のある高校生の実態調査報告書」との比較、2009 年に 18 歳以上を対象とした「教育から就業への移行実態調査Ⅱ」との比較も行いました。ご購入の方法などは、全国 LD 親の会 HP をご覧ください。

【行政解説】「特別支援教育・発達障害支援行政の最新情報と合理的配慮」
文部科学省　大山 真未 氏（特別支援教育課課長）
厚生労働省　金田 弘幸 氏（職業安定局
障害者雇用対策課地域就労支援室 室長）

今年批准した「障害者の権利に関する条約」を踏まえ、文部科学省と厚生労働省の昨今の発達障害に対する取り組みや平成 26 年度予算の概要等について解説していただきました。

文部科学省の大山氏からは、インクルーシブ教育システムや合理的配慮、発達障害教育情報センターなどについて、厚生労働省の金田氏からは、障害者雇用の促進、若年コミュニケーション能力要支援者就職プログラムなどについてご説明いただきました。

【講演＆ワークショップ】
「障害のある子どもの心理」心理的疑似体験
両川 晃子 氏（信州大学附属病院、長野県スクール
カウンセラー、特別支援教育士SV）

ワークショップでは、両川先生が障害のある子どもの心理を疑似体験し、一人一人のニーズを把握していくプログラムを用意してくださいました。

【注意・集中が苦手な子】【「説明する」「聞いて○○する」が苦手な子】【会話が苦手な子】の疑似体験を通して、課題をおこなうためにどんな工夫が必要なのか考えました。

本人や保護者が要望を伝えていく上でも、ニーズと具体的な方法を整理することが重要ですが、実際にはとても難しい作業です。日常の場面でも、良かれと思っておこなっていることが、実は子どもの負担感を増やしているなど、異なった視点を常に持つことが大切だと感じました。

◇◆◇◆◇◆　参加者のアンケートから　◇◆◇◆◇◆

- 柘植先生の合理的配慮のお話、とてもありがたかったです。情報として新しいものばかりで、大変役立ちました。
- 「合理的配慮」は、大人になり仕事をするときにも大切なポイントになると思います。
- ワークショップの疑似体験で子どもの気持ちがとても良くわかり、また、それをこれからの場面にどう応用すればいいか、そのヒントも知る事ができました。
- ワークショップがとても面白かったです。困難を抱える子どもにとって周りの世界がどうように見えるのか、どう感じるのか、体感することができました。
- 合理的配慮について、いろいろな面からのお話があり、大変勉強になりました。　（井上）

会員の子どもの構成調査

＜総括表＞

(正会員46団体の集計)

区分	人数					男女比	
	男	女	合計	区分比率	前年比	男	女
未就学	28	10	38	1.3%	-30.9%	73.7%	26.3%
小学校	462	139	601	20.2%	-12.5%	76.9%	23.1%
中学校	430	120	550	18.5%	-2.3%	78.2%	21.8%
高校相当	417	111	528	17.7%	-5.2%	79.0%	21.0%
高卒相当	1,002	261	1,264	42.4%	1.0%	79.3%	20.6%
合計	2,339	641	2,981	100.0%	-4.2%	78.5%	21.5%

(高卒相当で男女未記入1名)

＜小学校＞

区分	男	女	計
小1	40	13	53
小2	50	15	65
小3	68	19	87
小4	90	23	113
小5	101	28	129
小6	113	41	154
計	462	139	601

＜中学校＞

区分	男	女	計
中1	143	43	186
中2	151	42	193
中3	135	35	170
その他	1	0	1
計	430	120	550

＜高校相当＞

区分	男	女	計
高1 (高専1年)	131	30	161
高2 (高専2年)	102	33	135
高3 (高専3年)	99	24	123
単位制高校	74	20	94
その他	5	3	8
就労・在宅等	6	1	7
高校相当計	417	111	528

＜高校卒業相当以上＞

区分	男	女	計
大学・短大	129	31	160
高等専門学校4年～	5	0	5
専門学校	50	12	62
就労 (一般)(週3日以上)	145	28	173
就労 (障害枠)(週3日以上)	296	72	368
ﾊﾟｰﾄ (一般)(週2日まで)	16	5	21
ﾊﾟｰﾄ (障害枠)(週2日まで)	10	3	13
職業訓練校・委託訓練	14	2	16
就労移行支援	58	21	79
就労継続支援 (A型･B型)	85	28	113
授産･作業所(旧体系)	24	4	28
その他 (ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ等)	27	7	34
在宅	90	32	122
不明	53	16	70
高校卒業相当計	1,002	261	1,264

(「不明」で男女未記入1名)

＜小学校＞

種 別	人数	比率	前年対比
普通級(通級利用無し)	186	30.9%	-28.5%
普通級(通級利用有り)	121	20.1%	-19.3%
特別支援学級	206	34.3%	-13.1%
特別支援学校	8	1.3%	0.0%
その他・不明	80	13.3%	150.0%
計	601	100.0%	-12.5%

＜中学校＞

種 別	人数	比率	前年対比
普通級(通級利用無し)	206	37.5%	-17.9%
普通級(通級利用有り)	56	10.2%	12.0%
特別支援学級	200	36.4%	1.0%
特別支援学校	24	4.4%	33.3%
フリースクール等	2	0.4%	-33.3%
その他	14	2.5%	-26.3%
不明	48	8.7%	100.0%
計	550	100.0%	-2.3%

＜高校生の状況＞

	単位制以外						単位制高校						人数計	人数比率
	国・公立			私立			国・公立			私立				
	全日制	定時制	通信制	全日制	定時制	通信制	全日制	定時制	通信制	全日制	定時制	通信制		
普通科	67	12	4	84	2	24	15	6	4	28	0	41	287	54.4%
専門学科（商業・工業・農業等）	31	2	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	52	9.8%
総合学科	4	0	0	7	0	0	1	1	0	0	0	2	15	2.8%
高等専門学校（1～3年）	2			1									3	0.6%
高等特別支援学校・特別支援学校高等部	105	0	0	0	0	0							105	19.9%
高等専修学校	1	0	0	28	0	1							30	5.7%
専門学校	0	0	1	3	0	0							4	0.8%
フリースクール													2	0.4%
その他													5	0.9%
不明													25	4.7%
計	210	14	5	142	2	25	16	7	4	28	0	43	528	100.0%

	人数	比率
国・公立	256	51.6%
私立	240	48.4%

	人数	比率
単位制以外	398	80.2%
単位制	98	19.8%

	人数	比率
全日制	396	79.8%
定時制	23	4.6%
通信制	77	15.5%

一般社団法人　日本 LD 学会　第 23 回大会

【大会テーマ】「より効果的な支援をめざして
－学習支援から問う特別支援教育－」

日　時　：　2014年11月23日（日）～24日（月・祝）

場　所　：　大阪国際会議場（グランキューブ大阪）
〒530-0005　大阪市北区中之島 5 丁目 3 番 51

●全国 LD 親の会企画シンポジウム

【テーマ】高等学校における特別支援教育
－LD等の発達障害のある生徒への
支援充実に向けて―

司　会　　井上育世（NPO法人全国LD親の会）
話題提供　東條裕志（NPO法人全国LD親の会）
話題提供　鋒山智子（京都府総合教育センター）
指定討論　樋口一宗（兵庫教育大学大学院）

【企画趣旨】

高校という時期は、社会参加に向け、自らのライフデザインを考える上で非常に大切な時期といえます。発達障害のある子どもたちが、自己の生き方を考え、主体的に進路を選択することができるようになるためには、一人一人の教育的ニーズが的確に把握され、自立と社会参加に向けた教育的支援が具体化されることが重要です。

高等学校における特別支援教育が始まってから８年目の現状と課題について考えてみたいと思います。

●親の会ポスター展示

LD学会大会での親の会ポスター展示は、会報とは違う情報発信ツールです。各会の活動紹介を、模造紙1枚（788×1091mm）で作成して下さい。全国LD親の会のホームページにポスター作成のコツや展示の感想が掲載されていますので、参考にして下さい。

エントリーされる方は、事前に申し込みをお願い致します。ポスターは事前送付または会場に直接ご持参下さい。送付先等詳細は、同封のチラシをご覧ください。

（担当：大阪「おたふく会」「翼」）

●懇親会のお知らせ

親の会の懇親会を11月23日（日）18:00より、会場の隣のリーガロイヤルホテルで計画しております。全国の親の会の皆様と友好を深める楽しいひと時となりますようご参加をお待ちしております。

参加ご希望の方は、親の会ごとに、お申込みください。申し込み等詳細は同封のチラシをご覧ください。

（担当：大阪「おたふく会」「翼」）

発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化

日本財団 The Nippon Foundation 助成事業

子どもが自分に合ったサポートツールを使用していくことは、子ども自身が自分のことを知り、自分に合った学習方法を手に入れて、自ら学んでいく力をつけていくことになり、本人が自己理解を進めていく道筋につながっていきます。今年度も、発達障害のある子ども達が自分の生活・人生をいきいきとしたものにしていくために、「サポートツール」についての活動を進めています。

1、教材教具研修会「発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた指導・支援の具体的方法」の開催

①サポートツール全国キャラバン 2014 in 富山
＊日時: 2014 年 9 月 28 日(日)10:00～16:30(受付 9:40)
＊会場:富山市障害者福祉プラザ 多目的ホール
＊参加費:一般 1,000 円（全国 LD 親の会会員 500 円）
＊定員:80 名
＊富山県 LD 等発達障害及び周辺児者親の会「ゆうの会」と共催
＊プログラム
講演 1「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」～使い方で変わる教材の有効性～
講師:山田充氏
（特別支援教育士スーパーバイザー）
講演 2「発達障害のある子どもの感覚運動機能に応じた教材教具の工夫」
講師:嶋谷和之氏
（日本感覚統合学会テストメカニクスインストラクター）
ワークショップ:ビデオ・資料をもとにグループごとに具体的な支援方法を考えます。
（申込方法など詳細は全国LD親の会HPをご覧ください）

②サポートツール全国キャラバン 2014 in 高知
＊日時: 2015 年 1 月 11 日(日)10:00～16:30
＊会場:高知市文化プラザかるぽーと 大講義室
＊高知 LD 親の会 sky と共催

③サポートツール全国キャラバン 2014 in 大分
＊日時: 2015 年 2 月 22 日(日)10:00～16:30
＊会場:大分県立芸術文化短期大学人文棟 205 教室
＊大分県発達支援親の会「じゃんぷ」と共催
（高知と大分での開催の詳細については、決まり次第、全国 LD 親の会 HP に掲載します）

2、今後の事業内容について

①サポートツール・データベースの充実作業実施・研修会のプログラム策定運営会議
日時:2014 年 4 月 26 日(土)14:00～17:00
②サポートツール・データベース事業推進会議
日時:2014 年 6 月 14 日(土)19:30～21:00

今年度は「発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化」事業が 3 年目を迎えることから、今年度第 1 回のサポートツール・データベースの充実作業実施・研修会のプログラム策定運営会議・事業推進会議を開き、2014 年度の事業及び今後の事業内容について話し合いました。

障害者権利条約批准への動きの中で、平成 23 年 8 月障害者基本法が改正され、その教育の条文第 16 条に「適切な教材等の提供」が追加されました。そして、平成 24 年 7 月の中央教育審議会初等中等教育分科会により「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」が報告され、この中で、障害のある児童生徒が十分に教育を受けられるための合理的配慮の基礎となる環境整備の一つとして「教材の確保」が挙げられていることから、全国 LD 親の会では平成 24 年度から、サポートツール・データベース事業において、基礎的環境整備とユニバーサルデザインの考え方についての取り組みを始めました。平成 25 年 8 月 28 日には、「障害のある児童生徒の教材の充実について 報告」が、障害のある児童生徒の教材の充実に関する検討会によって取りまとめられました。この報告では、「障害のある児童生徒の将来の自立と社会参加に向けた学びの充実を図るためには、障害の状態や特性を踏まえた教材を効果的に活用し、適切な指導を行うことが必要」であり、「このため、各学校における必要な教材の整備、新たな教材の開発、既存の教材を含めた教材の情報収集に加え、教員がこれらの教材を活用して適切な指導を行うための体制整備の充実が求められる」と基本的な考え方を挙げています。

今年、障害者権利条約に批准した日本は、平成 28 年 4 月の施行に向けて基本方針並びにガイドラインの作成へと動いています。教育分野においても、今後、教材の充実に関連した施策の推進により、特別支援教育の一層の充実、障害のある児童生徒が十分な教育を受けられる環境整備が具体化される必要があります。共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のためには、従来の授業の進め方、教材の使い方について、ユニバーサルデザインの考え方・急速に進みつつある教育の情報化と ICT の活用といった新しい価値観の導入が重要な課題となってきています。

障害のある児童生徒の将来の自立と社会参加への道筋をしっかり確保していくために、今年度は基礎的環境整備とユニバーサルデザインの考え方をまとめ、来年度からはそれを踏まえて「合理的配慮」を中心に事業を進めていく予定です。（井上）

特別支援教育支援員養成事業

日本財団 The Nippon Foundation 助成事業

NPO 法人全国 LD 親の会では、特別支援教育支援員の養成、保護者・学生等のボランティアの養成方法の研究・開発を行うことにより、発達障害等の障害のある児童・生徒への支援の充実、特別支援教育の推進、保護者のエンパワメント、障害のある幼児児童生徒に対する社会一体となった支援の充実に資することを目的とした事業に取り組んでいます。

今年度の養成講座は、特別支援教育支援員養成講座を神戸市で、ボランティア支援員養成講座を福岡市と名古屋市で実施します。

1.特別支援教育支援員養成講座

特別支援教育支援員、学習支援員、介助員だけでなく、学童保育・児童デイサービス等で発達障害児の支援を行っている方等に必要な知識や技能を織り込んだカリキュラムになっています。

◆コース:

・支援員コース[講習:5 日間(21 科目/30 時間)]
特別支援教育支援員として、学校長や担任教諭等の指示の下で、発達障害等の障害のある幼児児童生徒に対する介助、保護者等に対する相談支援が行える者の養成

・学習支援員コース[講習:7 日間(27 科目/41 時間)]
特別支援教育支援員として、学校長や担任教諭等の指示の下で、発達障害等の障害のある幼児児童生徒に対する学習支援、介助、保護者等に対する相談支援が行える者の養成

◆日程:平成 26 年 8 月 30 日(土)～11 月 15 日(土)

[支援員コース・学習支援員コース共通]

第 1 日　平成 26 年 8 月 30 日(土)　9:20～17:00
第 2 日　平成 26 年 8 月 31 日(日)　9:20～16:40
第 3 日　平成 26 年 9 月 27 日(土)　9:20～16:40
第 4 日　平成 26 年 9 月 28 日(日)　9:20～16:40
第 5 日　平成 26 年 10 月 18 日(土)　9:20～16:40
16:40～16:50　支援員コース修了式

[学習支援員コースのみ]

第 6 日　平成 26 年 10 月 20 日(日)　9:20～15:40
第 7 日　平成 26 年 11 月 15 日(土)　9:20～16:40
16:40～16:50　学習支援員コース修了式

◆会場:神戸市勤労会館　3F　講習室　308
神戸市中央区雲井通 5 丁目 1-2

◆定員:60名程度(うち学習支援員コース=20名程度)

◆共催:兵庫県LD親の会「たつの子」

◆講師:
特別支援教育士SVの有資格者等を中心とした16名

※参加申込受付は、既に終了しました。

2.ボランティア支援員養成講座

ボランティア支援員養成講座では、学校等で有償・無償のボランティアとして、学校長や担任教諭の指示の下で、発達障害等の障害のある子どもの支援、保護者等に対する相談支援が行える者の養成を目指しています。

ボランティア支援員を目指す方、学童保育・放課後等デイサービス等で発達障害児の支援を行っている方等を対象としています。

①ボランティア支援員養成講座 in 福岡

◆コース:ボランティア支援員コース
[講習:2 日間(10 科目/13.5 時間)]

◆日程:
第 1 日　平成 26 年 12 月 6 日(土)　9:10～17:50
第 2 日　平成 26 年 12 月 7 日(日)　9:00～16:50
16:50～17:00　ボランティア支援員コース修了式

◆会場:中村学園大学　西 2 号館　2604
福岡市城南区別府 5-7-1

◆定員:60 名

◆参加費:6,000 円

◆共催:福岡発達障がい者親の会「たけのこ」

◆後援:福岡県教育委員会、福岡市教育委員会

◆講師:
特別支援教育士SVの有資格者等を中心とした8名

②ボランティア支援員養成講座 in 名古屋

◆コース:ボランティア支援員コース
[講習:2 日間(9 科目/12.5 時間)]

◆日程:
第 1 日　平成 26 年 12 月 20 日(土)　9:20～17:30
第 2 日　平成 26 年 12 月 21 日(日)　9:20～16:40
16:40～16:50　ボランティア支援員コース修了式

◆会場:愛知県産業労働センター　ウインクあいち
名古屋市中村区名駅 4-4-38

◆定員:50 名

◆参加費:6,000 円

◆共催:あいち LD 親の会かたつむり

◆後援:愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会

◆講師:
特別支援教育士SVの有資格者等を中心とした7名

※福岡市と名古屋市でのボランティア支援員コースのプログラム等詳細や申し込み方法などは、決まり次第、全国LD親の会および共催の親の会のHPに掲載します。

（井上）

一般社団法人 日本発達障害ネットワーク年次大会

7 月 5 日（土）～6 日（日）に北海道札幌市の道民活動センター「かでる 2. 7」で日本発達障害ネットワーク（JDDネット）の第 10 回年次大会が行われました。参加者は総数で 545 名にのぼりました。

5 日に「発達障害支援のこれまでとこれからを語り尽くすシンポジウム」が 2 部構成で行われました。

第 1 部「JDDネットワーク 10 年の歩み」では、全国LD親の会顧問でJDDネット専門委員の山岡修氏、高山恵子氏、伊東兼重氏、藤堂栄子氏、JDDネット理事長の市川宏伸氏から、JDDネット発足時の状況などの話がありました。山岡氏からは、2004 年の発達障害者支援法の成立前から当事者団体での勉強会を始め、支援法成立のちょうど 1 年後の 2005 年 12 月 3 日にJDDネットが発足したという発足時の話の他に、JDDネットが発達障害者全体の代表であるという立場なので、行政に対しても支援の拡充を強く主張できたということも紹介されました。

第 2 部「JDDネットワーク 10 年の展望」では、新保文彦氏、伊東兼重氏、藤堂栄子氏、東條裕志、橋口亜希子氏から、これから、JDDネットをどのように発展させていくかなどについて話がありました。橋口氏からは、今後のJDDネットの活動のためにまず親の会の活動を活発化させなければならないが、親の会の運営が厳しいという現状についての問題提起がありました。親の会の運営が一部の人のマンパワーに委ねられていると子育てと会の運営の両立に疲弊してしまうということと、支援機関が増えたので親の会に入会する人が少なくなって来ているという現状、それでも親の会は必要だという認識との差を埋められるかという問題でした。会員数が増えない状況の全国LD親の会の一員として、大きな共感を覚えました。東條からは、発達障害への理解と大人の発達障害への対応が進んでいないことを課題として、「発達障害を含む障害全体」に対する理解啓発活動を発達障害に限らない他の障害者団体などと共同で行うことなどの必要性を話しました。

年次大会運営に協力いただいた北海道ブロックの方々に感謝致します。 （東條）

---

6 月 8 日（日）に行われたJDDネット理事会で、今年度のJDDネットの役員として、理事長：市川宏伸（日本自閉症スペクトラム学会会長）、副理事長：新保文彦（一般社団法人日本自閉症協会副会長）、藤堂栄子（NPO法人EDGE会長）、橋口亜希子（NPO法人えじそんくらぶ理事）、倭文真智子（一般社団法人日本臨床心理士会職能部長）、東條裕志（NPO法人全国LD親の会理事長）が選出されました。 （東條）

障がい者福祉施策（労働）

厚生労働省は、平成25年度の障害者の職業紹介状況をまとめ、5月14日発表しました。

ハローワークを通じた障害者の就職件数は、平成24年度の68,321件から大きく伸び、77,883件（対前年度比14.0%増）と4年連続で過去最高を更新しました。また、就職率も45.9%（同3.7 ポイント上昇）と、4年連続で上昇しました。さらに、精神障害者の就職件数が大幅に増加し、初めて身体障害者の就職件数を上回りました。

ポ イ ン ト

○新規求職申込件数は169,522件で、対前年度比7,581件、4.7%の増となりました。また就職件数は77,883件で、同9,562件、14.0%の増となりました。就職件数はいずれの障害種別でも増加しており、特に精神障害者の就職件数が大幅に増加し、身体障害者の就職件数を初めて上回りました。

○就職率（就職件数／新規求職申込件数）は45.9%で対前年度比3.7ポイント上昇しました。

	新規求職申込件数	対前年度(前年度比)	就職件数	対前年度(前年度比)
身体障害者	66,684 件	2,114 件減(3.1%減)	28,307 件	1,734 件増(6.5%増)
知的障害者	30,998 件	774 件増(2.6%増)	17,649 件	1,619 件増(10.1%増)
精神障害者	64,934 件	7,581 件増(13.2%増)	29,404 件	5,543 件増(23.2%増)
発達障害者、難病等	6,906 件	1,340 件増(24.1%増)	2,523 件	666 件増(35.9%増)
合 計	169,522 件	7,581 件増(4.7%増)	77,883 件	9,562 件増(14.0%増)

○産業別でみると、「医療・福祉」(24,393件)、「卸売業・小売業」(10,888件)、「製造業」(10,624件)での就職件数が多くなっています。

○解雇者数は1,248人となっています。（平成24年度は1,539人）

全国特別支援教育推進連盟より

全国特別支援教育推進連盟は、特別支援教育の振興と更なる充実を求め、加盟団体が連携し活動しています。加盟団体は、全国特別支援学校長会、全国特別支援学級設置学校長協会、全国盲学校PTA連合会、全国聾学校PTA連合会、全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会、全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会、全国病弱虚弱教育学校PTA連合会、日本肢体不自由児協会、全国肢体不自由児・者父母の会連合会、全国重症心身障害児（者）を守る会、全国視覚障害児（者）親の会、全国聴覚障害者親の会連合会、全国病弱・障害児の教育推進連合会、盲ろうの子とその家族の会　ふうわ、日本自閉症協会、全国LD親の会、全国病弱・障害児の教育推進連合会の 16 団体です。

7 月 8 日　第 2 回理事会が開催され、各団体の要望事項について説明、情報交換を行いました。「平成 27 年度予算要望」としてまとめ、文部科学省・厚生労働省へ 7 月末に提出しました。あわせて、推進連盟は厚生労働省「障害児支援の在り方に関する検討会」のヒヤリングに参加し、要望事項を伝えました。「今後の障害児支援の在り方について（報告書）」は、厚生労働省HPに公開されていますので、ぜひご覧ください。

＜平成 26 年度事業計画＞

(1) 第 37 回全国特別支援教育振興協議会
　日時：　平成 26 年 12 月 5 日（金）10:00～16:00
　会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
　○　幼・小・中・高校・特別支援学校 PTA 役員による情報交換、協議
　○　特別支援教育コーディネーターによる実践報告
(2) 特別支援教育コーディネーター養成講座
　平成 26 年 7 月下旬及び 8 月上旬
(3) 関係図書の刊行

推進連盟では、理解啓発冊子「子どものニーズに応じた教育的支援のために」を発行しています。今年度、発達障害について、専門家の監修のもと内容を充実していただけるとのことでした。（各団体の要望事項・理解啓発冊子「子どものニーズに応じた教育的支援のために」は、推進連盟のHPからダウンロードすることができます。）

共生社会に向けて、私たちも様々な障害について理解を深めていきましょう。

（多久島）

高知 LD 親の会 sky　設立総会＆記念講演会

＊設立総会　2014年4月13日（日）13:00～13:30
会場：高知市東部健康福祉センター　3階　集会室
高知市葛島4丁目3－3
＊設立記念講演
「発達障害児に対する支援について」
講師：寺田　信一　先生（高知大学教育学部教授）
日時：2014年4月13日（日）14:00～15:30
会場：高知市東部健康福祉センター　3階　集会室
主催：高知LD親の会　sky
後援：NPO法人全国LD親の会

去る4月13日（日）、設立総会においてすべての議案が可決されて、「高知LD親の会　sky」が正式に発足し、6月14日（土）の全国LD親の会理事会において、全国LD親の会への入会が承認されました。

設立総会後には、高知大学教育学部教授の寺田信一先生による設立記念講演会が開催され、「発達障害児に対する支援について」と題して、高知県における支援の具体的な内容についてご講演いただきました。あいにくの雨降りでしたが、およそ80名の参加がありました。当日は、会場設営や子ども預かりなど多くのボランティアのお手伝いもあり、また、高知新聞やさんさんテレビの取材もあるなど、skyの皆さんが活発に動いている様子を拝見して大変頼もしく思いました。

skyは、毎月第 4 週（奇数月は土曜日、偶数月は日曜日）に、座談会や勉強会、身体を動かすレクリエーションなどの企画をおこなっています。子どもの勉強サポートプログラムも計画中です。来年の年明けには、サポートツール全国キャラバンを高知で開催します。（詳細は、かけはし p6 に記載）

尚、sky の HP も立ち上げています。是非ご覧ください。
HP：http://kochild-sky@jimdo.com/

（井上）

近畿ブロック便り

「高知LD親の会 sky」を迎え 12 会で元気に発進しました。チームワークを大切にGO！
今回は、近畿ブロック研修会の紹介です。

近畿ブロックでは、研修会を 2013 年 11 月 17 日と 2014 年 7 月 13 日に実施しました。
研修会のあり方の参考になると思いますので、レポートいたします。

Ⅰ. テーマ:発達障害のある人が安心して暮らすために～親の会の役割～

開催日時:2013 年 11 月 17 日(日)13:30～17:00
場所:神戸市青少年会館レクリエーションホール
出席者:39 名

昨年 11 月の近畿ブロック研修会は、設立 20 年以上の親の会の方、設立間もない親の会の方、長年親の会の活動に関わっている方、新しく親の会のリーダーになられた方、みなさんで必要な情報を共有し、さらに活動を前進させていくために、何が必要なのか考え、意見交換しようという趣旨で企画しました。話題提供を、全国 LD 親の会の理事長として長年親の会の活動をリードしてこられた内藤さんにお願いし、その後、議題別にグループに分かれて話し合いました。

1. 話題提供
内藤孝子氏(前 NPO 法人全国LD親の会理事長)
「発達障害のある人が安心して暮らすために
～親の会の役割～」

2. 班別研修会
次の 4 班に分かれて、議論しました。

① 子どもの活動の場の親の会の役割 7 名
② 家族支援での親の会の役割 9 名
③ 教育の場での親の会の役割 6 名
④ 就労支援での親の会の役割 13 名

自己紹介・各会のテーマ毎の活動状況の発表のあと、親の会の活動で出来ること・今後実施したいことをまとめ発表しました。

① 子どもの活動の場で今後実施したいこと
- お母さんの集まりが親の会ならではであり、親同士が繋がらなくては子どもも繋がらない。
- サポートする先生が必要。学校の先生だけでなく、作業療法士や言葉の教室の先生や時には演劇指導者の方など、プロの視点も必要。
- 小さい子どもは運動が良い。青年も同時に参加させると青年が小さい子のフォローもし双方に効果がある。
- 青年の会はカラオケ等の企画がよく、当番を決めて次回企画させると自立心がつく。
- 親が楽しめることが大事。

② 家族支援で今後実施したいこと・・・子どもの笑顔＝親の安心
- 保護者がどういう傾向にあるか実情を把握する。
- カウンセリング会やペアレントメンター活動、学習スキル活動
- 同じ体験した人との懇談会(いろいろな人の話を聞いて共感したい)
- 行政の会議等の傍聴や行政との懇談会

③ 教育の場で今後実施したこと
- 夏祭りやバーベキューのような「楽しい」だけ、また「勉強」だけでは続かない。
- 「遊び」と「勉強」が結びつけるような企画。
  →学校で出来ないフォロー(グループ分けの工夫)、親が参加したい企画
- 子どもの居場所を作る
- 「つらい時期」＝「成長期」と捉える。後々「無駄」ではない。
- 情報発信を活発にする。啓蒙活動を原点に立ち帰り、やり直す。

④ 就労の場で今後実施したいこと
- 親が孤立しないように、子ども自立を見守りながら親同士の情報交換
- 親自身の居場所として、親の会の存在(いかに多くの支援先を知って相談に乗れるか)
- 近畿ブロックでの横のつながり強化(職業センター、雇用支援センター、特例子会社等見学)
- 不登校・ひきこもりの子供を持つ親同士の交流

以上熱心に話し合われた結果の発表があり、好評のうちに終了しました。

参加者の感想(アンケートより)

企画全体について
- LD 親の会の流れがわかってよかった。(多数)
- 他の親の会の活動を知ることができ、交流できてよかった。(多数)
- 前半講演会、後半グループセッションの構成がとても良かった。

話題提供について
- 全国 LD 親の会の設立から今日まで話を聞くことができて大変役に立ちました。(多数)
- 今まで内藤さんを中心に親の声を届けてきたことで、制度が充実してきた過程がよくわかりました。「あきらめず、あせらず、支えあって」をこれからも心掛けていきたいと思います。

班別での話し合いについて

「各会の色々な活動や課題を聞けて、とても有意義な企画だったと思います。自分たちの会のこれからの活動の参考にしたいと思います。他の会の方々と楽しい親睦の機会となりました。」との感想が多数ありました。

「教育」

・各会、悩みは同じですが、いろいろアドバイスし合うことができました。
・親の会のあり方をじっくり聞けて、教育との関わり方も具体的にわかりました。有意義な時間でした。

「子ども」

・他の会の良さが良く分かり勉強になった。補助金を活用する、協力者(核になる先生)を得る、青年の活動の場を増やす(青年主体)、親自身が楽しめる会であること等これからの参考にしていきたい。

「家族」

・各親の会の活動内容や悩みを聞く機会ができたのは良かった。大きな会での活動の豊かさ、地域が違っても共通する悩み…。まずは「知る」ことの大切さを改めて感じた。地域差はあるが、まずは共通する課題をどうクリアしていくのか考えたい。

「就労」

・就労のこと、自立のこと、青年の活動の事などで、色々な会の問題や活動のヒントがもらえて良かった。親の会の価値等で、発想の転換になることもたくさんあって会に持ち帰ってこれからの活動に活かしていきたい。
・各グループ、各メンバーの発表を通じて、関わりの難しさと共に、支援者、支援機関とのつながりの大切さに気付いた。

Ⅱ. テーマ:文部科学省の特別支援教育行政の最新動向について

開催日時:2014 年 7 月 13 日(日)
15:00～17:00
場所:神戸市青少年会館レクリエーションホール
出席者:36 名(会員 34 名、一般 2 名)
講師　:樋口　一宗　氏
(兵庫教育大学大学院学校教育研究科
特別支援教育コーディネーターコース教授)

樋口先生は、今年3月まで文部科学省におられ、初等中等教育局　特別支援教育課　特別支援教育調査官として、平成18年度より特別支援教育に携わってこられました。

現在は、兵庫県教育大学大学院に新設された特別支援教育コーディネーターコース教授として、特別支援教育における課題の解決を自ら主体的に考えて、地域や学校で中核となって活動する特別支援教育担当者の育成に当たられています。

特別支援教育の現状 (H25. 1現在)

義務教育段階の全児童生徒数1030万人 減少傾向
特別支援学校　約6万7千人　(H15年比　1. 3倍)
特別支援学級　約17万5千人(H15年比　2. 0倍)
通級による指導　約7万8千人(H15年比　2. 3倍)
通級は、国から先生を加配しているが、支援学級を決めるのは県であり、支援学級を増やせば先生を増やす必要があるので、なかなか進まない。

① 障害者の権利に関する条約への対応
H18年12月　国連採択
H20年　5月　条約発効144ケ国、1地域機関批准
H26年　1月　日本国批准(発効　2月19日)
教育関係:個人に必要とされる合理的配慮が提供
お金と内容が見合っている＝ほどほどの提供
ニュージーランドでは、障害者一人ひとりに予算が決められている。
H23年8月　障害者基本法の改正
H24年7月　中教審初等中等分科会報告
インクルーシブ教育システムの促進

② 平成26年度特別支援教育関係予算等の解説

参加者の感想(アンケートより)

① 本日の研修を受けた感想
・文科省の考え方や法律用語の難しい事項を分りやすく、丁寧に教えていただき良かった。(多数)
・他国の考えが分かって、面白く聞けました。

② 発達障害者や特別支援教育に関して感じる課題
・中学の先生にとって生徒を進学させるということが最重要課題で、合理的配慮を考える余裕がない。
・県や市によって特別支援教育への取り組みが大きく異なっている。(多数)
・一人ひとりに合った個別教育の在り方と、その先にある本人にあった求職活動と生涯設計の対応が難しい。

他、多数のご意見を頂きましたので、次回研修に活かしてまいります。

(入船)

●NPO 法人全国 LD 親の会主催　東京東部地域での教育講演会開催のお知らせ

「発達障害のある子どもたちへの支援の仕方」 ～学校での取り組みと家庭での活用方法～

日　時:2014 年 10 月 11 日(土)午後 2:00～4:30(受付 1:40～)
場　所:江戸川区総合文化センター　会議室
講　師:漆澤　恭子氏(植草学園短期大学教授)
参加費:無料、 お問い合わせ・お申し込みはメール(ldkouza_tokyoeast@outlook.jp)にて受付中。

●NPO法人全国LD親の会　活動報告

4 月 10 日　日本財団春の交流会(東條)
4 月 13 日　高知 LD 親の会sky設立総会・設立記念講演会(井上)
4 月 13 日　JDD ネット第1回理事会(東條)
4 月 17 日　「かけはし 78 号」発行
4 月 22 日　理学療法士協会 2014 年度助成決定(第 13 回全国 LD 親の会公開フォーラム開催事業)
4 月 26 日　サポートツール・データベース事業　運営会議(入船・井上)
5 月 09 日　全国特別支援教育推進連盟第 1 回理事会(多久島)
5 月 17 日　AIG ジャパン・ホールディングス株式会社より寄付の連絡
5 月 17 日　第 21 回理事会(みなし決議)
5 月 20 日　第 7 回総会議案を各会に発送
5 月 21 日　2013 年度事業監査・会計監査(丹藤・吉田・東條・増田)
5 月 25 日　日本財団担当者と懇談(内藤孝・井上)
5 月 28 日　法務局に資産変更登記完了
5 月 28 日　2013 年度日本財団助成金事業監査(東條・井上・増田)
6 月 08 日　JDD ネット代議員総会(東條・内藤聖)、第 2 回理事会(東條)
6 月 10 日　特別支援教育支援員養成講座(神戸)受講生募集
6 月 14 日　「LD 等の発達障害のある高校生の実態調査報告書 II」発行
6 月 14 日　NPO法人全国LD親の会第 7 回総会、研修会、懇親会、第 17 回評議員会、第 22 回理事会
(国立オリンピック記念総合青少年総合センター)
6 月 14 日　NPO法人全国LD親の会青年の交流会(東京)
6 月 15 日　NPO法人全国LD親の会第 13 回公開フォーラム(国立オリンピック記念総合青少年総合センター)
6 月 24 日　全国特別支援教育推進連盟に予算要望を提出
6 月 25 日　東京都に平成 25 年度事業報告を提出
7 月 05 日　JDD ネット第 10 回年次大会(山岡・東條)、第 3 回理事会(東條)

●第 21 回理事会報告

日時:2014 年 5 月 17 日(土)20:40－23:30　出席者:井上育世、梅野真澄、多久島睦美、東條裕志、内藤孝子
[議案]　1.　NPO法人全国LD親の会　平成 26 年度活動方針及び予算案を全員一致で承認した。
2.　NPO法人全国LD親の会　第 7 回総会に付議する平成 25 年度事業報告・決算報告、
及び平成 26 年度役員案を全員一致で承認した。

●第 22 回理事会報告

日時:2014 年 6 月 14 日(土)19:30－21:00　出席者:井上育世、梅野真澄、多久島睦美、東條裕志
[議案]　1.　NPO法人全国LD親の会　第 17 回評議員会における
審議結果を審議し、全員一致で承認した。
＜審議内容＞
・高知LD親の会skyの正会員としての入会